



大歩危古路嶮



小歩危幽境

小歩危前門層巒

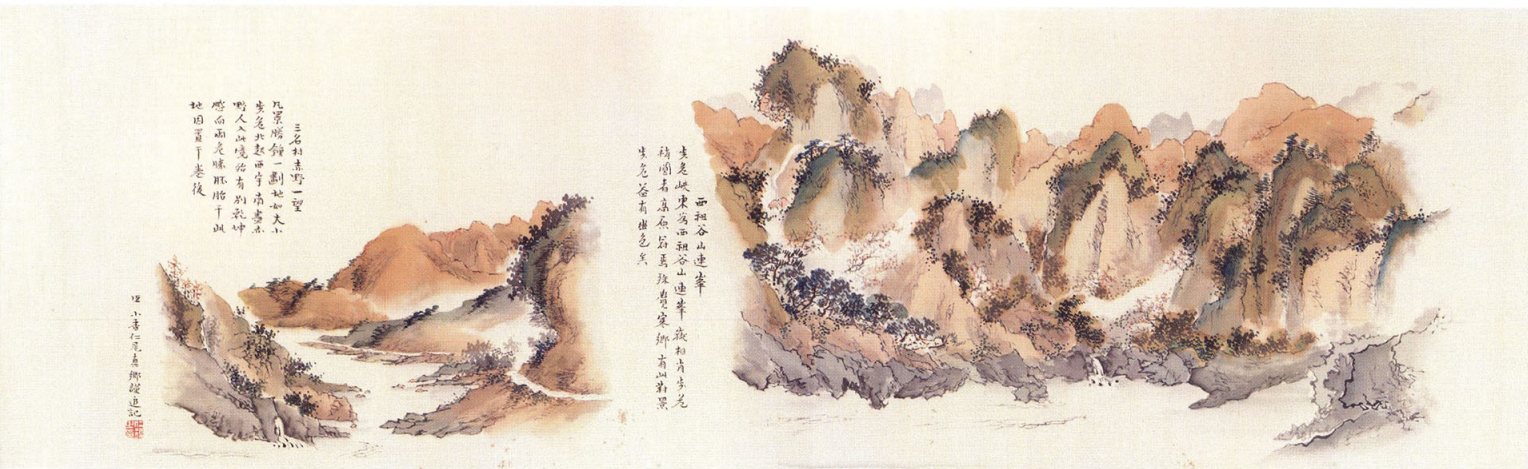


羚羊谷巨岩



猿返遠望

大歩危絶勝



三名村赤野一望

西祖谷山連峰

9 歩危八題図巻 仁尾小香 一卷
 大正十一年（一九二二）
 絹本着色
 三三・〇×五五七・二

大正十一年（一九二二）の皇太子（昭和天皇）南海道行啓の節、徳島県三好郡より献上されたもの。徳島の吉野川によって形成された奇岩つらなる峡谷、大歩危小歩危を画題として、阿波の文人画家仁尾小香（一八六六〜一九五〇）が自作の詩を付して描いている。小香が自ら巻頭に記した序文によれば、三好郡より歩危を題材とした絵巻制作の依頼を受け、現地を踏査して八つの景勝地を見出し本画巻を完成させたという。各図に記された八つの題名は次の通り。小歩危前門層巒、小歩危幽境、大歩危古路嶮、大歩危絶勝、猿返遠望、羚羊谷巨岩、西祖谷山連峰、三名村赤野一望。このような八題図は、近江八景や松島八景などのように、さかのぼれば瀟湘八景から派生した名所八景のひとつと言ふことができるだろう。

仁尾小香（一八六六〜一九五〇）は、阿波国（徳島県）三好郡辻町の酒造の家に生まれ、画家を志して京都に出ると、前田荷香、林寛齋に絵を学ぶとともに、詩文を江馬天江、林双橋、小野湖山、依田学海らに学んだ。郷里にもどってからは、三好郡書記などもつとめたが、その後は画事に専念し毎年数ヶ月は山水をめぐって旅をするという脱俗的な画家生活を送った。また小香は、つねに詩と画をひとつのものとして絵を描いたという。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

名所絵から風景画へ——情景との対話

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 76

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十九年三月二十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzōkan